

中頭指導行政の基本方針
重点目標

最多・最大の最高を追求する中頭教育の創造
～地域に根ざし、共に子供の育ちを保障する魅力ある学校づくり～

育成をめざす資質・能力

- 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得
- 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
- 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

国・県の施策

- 学習指導要領(平成29年)
- 学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成29年) 「考える道徳」議論する道徳
- 「道徳教育アーカイブ」(文部科学省)
- 学校 教育における指導の努力点 (令和5年度～令和9年度) 「3 道徳教育」「5 健やかな心と体を育む教育」
- 沖縄県 学力向上推進5か年プラン・プロジェクト II
- 「沖縄県道徳教育パンフレット」
- 「問い」が生まれるサポートガイド (沖縄県教育委員会)
- 沖縄県 教育振興基本計画 (令和4年度～令和13年度)

重点事項「わったーわらび」の学力保障と成長保障

長期目標: 持続可能な社会の創り手となる幼児児童生徒の育成

総括目標: 幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む。

基本方針

- 1 「特別の教科 道徳」を要として学校の教育活動全体を通じて行う「豊かな心」の育成
- 2 学校の指導体制の改善・組織文化の創造
- 3 学校、家庭、地域、関係機関との連携・協力

取組事項

- 1 子供の「居場所づくり」と「絆づくり」の推進
- 2 道徳的価値の自覚を深める授業の充実
- 3 豊かな人間性を育む人権教育の充実
- 4 発達の段階に応じたキャリア教育の推進

令和5年度の状況

- (県版生徒質問紙調査7月:12月より)
※「当てはまる」のみ集計
- 自分にはよいところがある(自己肯定感)
 - 小4～6年: 44.5%→44.0%
 - 中1～3年: 40.4%→42.5%
 - 学校のきまり(規則)を守っている
 - 小4～6年: 41.5%→37.6%
 - 中1～3年: 58.3%→59.5%
 - 人が困っているときは、進んで助けている
 - 小4～6年: 44.5%→41.0%
 - 中1～3年: 38.1%→38.6%
 - 学級の友達とで話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている
 - 小4～6年: 38.8%→37.0%
 - 中1～3年: 39.8%→40.3%

家庭の取組

- 規則正しい生活リズムの確立
- スマホ等の利用ルールづくり
- 家庭学習の確立
- ファミリー読書の推進

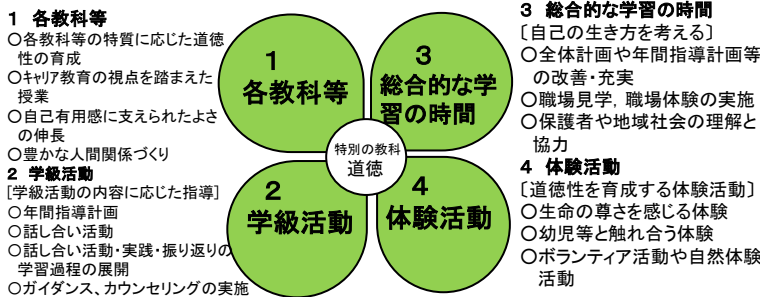
地域の取組

- 青少年健全育成の日奨励
- 放課後子ども教室推進事業
- 地域学校協働活動推進事業
- CGG運動
- 体験学習等への連携・協力

学校の取組

「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の推進!!

- 取組1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化
- 取組2 「自学自習力」を育む取組の充実
- 取組3 「学習基盤としてのICT」による児童生徒の学びに主体性を育む取組の充実
- 取組4 自校の「目指す児童生徒像」実現に向けた校内研修の充実
- 取組5 「指導と評価の一体化」実現のためのPDCAサイクルの確立



○学校の活性化に効果の期待できる取組

- 1 校長講話(めざす姿の共有)
- 2 指導案作成と授業実践
- 3 授業を補完する取組
- 4 五者会等へ学校事務職員が参加
- 5 学校評価の分析・活用
- 6 校長による授業参観と助言
- 7 評価システム面談にてめざす姿等の確認
- 8 校内教育支援委員会の充実

「学びの質」を高める「子供を主体にした」授業改善(道徳科)

～答えが一つでない課題に子供達が積極的に向かい合い「考え・議論する」道徳教育の充実～

	視点1 自己肯定感の高まり	視点2 学び・育ちの実感	視点3 組織的な関わり	改善ツール等
方策1 日常化する [質的授業改善]	○道徳的価値に迫る読み物の活用や、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など質の高い多様な指導法を取り入れた授業を全職員で展開 ○「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに自分と異なる意見をもつ他者と議論することを通して道徳的価値を多面的・多角的に考える。 ○他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく多面的・多角的な思考を通じて道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。	○調査分析に基づく児童・生徒の実態認識を共有 ○ガイダンスとカウンセリング機能の充実	○評価の視点・観点をそろえる ○ローテーション授業の実施	○授業における基本事項 ○授業プランシート ○別業の活用
方策2 そろえる [組織的共通実践]	○支持的な風土をつくる学級経営 ○学びに向かう集団づくり ○客観的な資料による学級の実態把握(Q-Uテスト、i-check、児童生徒質問紙など)	○確かな児童・生徒理解 ○学習規律の徹底		○授業スタンダード等 ○アセスメント調査分析等
方策3 支える [発達の支援]	○学校課題の解決に向けた組織マネジメント機能を高める。 ○「学力向上」と「生徒指導」を一体化した年間計画(年間サイクル)の作成			○キャリアパスポート ○不登校児童生徒への支援の手引き
方策4 見通す [学校組織マネジメント]	○市町村教育委員会による特色を生かした施策推進による学校づくり ○キャリア教育の視点を踏まえた校種間連携 ○研究指定校の実践波及	○学校・家庭・地域の連携		○学力向上推進 スクールプラン ○学校運営協議会制度 ○キャリア教育の推進

学び合う教職員の資質・能力向上

チーム学校づくりの推進

カリキュラム・マネジメントを生かした自律的学校経営の推進

～社会に開かれた教育課程の実現～

中頭地区学力向上推進委員会
[共通課題・共通実践事項]

しっかり教える

モデリング(数えて)「価値」「形」
コーナリング(考え、指図させ)「強化」「修正」
フィードバック(価値付ける)「勇気づける」

じっくり考え、させてみる

主体的な学びづくり 子供が学び合う授業づくり
「主体的・対話的で深い学び」
学習規律づくり よりよい学校・学級をめざす組織的な活動
(支持的風土の醸成)

たっぷり価値つける

子供自身が自分への信頼を高める「勇気づけ」
自己肯定感の高まり「承認」

2020年代を通じて実現を目指す学校教育

育成をめざす資質・能力
自立・協働・創造
(自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造)

新たな時代における学びの姿

個別最適な学び ↔ 協働的な学び
一体的な充実

中頭指導行政基本方針 重点事項 (検討中)

中頭型ウエルビーイングを目指して

「わったーわらび」の学力保障と成長保障
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
キーワード: 「じりつ」「きょうどう」「そらぞろ」